

医療法人南労会 紀和病院季刊誌

ウェルビー

ご自由に
お持ちください



いつかどこかで
また お会いしましょう



第 58 号 2024 年度 春

医療法人南労会 紀和病院

〒648-0085 和歌山県橋本市岸上 18-1 TEL.0736-33-5000
E-mail: info@nanroukai.or.jp URL: http://www.nanroukai.or.jp

皆さん、こんにちは。
紀和クリニックにて、訪問診療を行なっている在宅ケア科の川邊圭一です。
専門は、緩和ケア・ターミナルケアとなります。

紀和クリニック在宅ケア科は、人生の最期を迎えられる患者さんが、家や施設で迎えることを望まれた場合に、訪問診療を行うことを主な診療内容としています。対象となるご病気は、末期癌であったり、神経難病であったり、認知症であったり、老衰と多岐に渡ります。以前は、病気になっても自宅で最期まで療養されていました。最近では、病院に入院され最期を迎えることが当たり前となっていますが、再び、在宅療養に目が向けられるようになってきました。それは、患者さんが自分らしく最期まで住み慣れた家で過ごしたいと望まれることが多くなってきたことがあると思います。

僕は、長い間、病院での末期癌の緩和ケア、ターミナルケアに従事していました。しかし、他の病気や高齢者など、ケアの範囲を拡げたいという思いが強くなり、紀和クリニック在宅ケア科で働き始めました。今は、患者さんやご家族と深く触れ合いながらケアが出来ることに喜びを感じております。また、どんな疾患の患者さんでも、その人生を周りから尊重され、慈しまれつつ最期を迎えるという舞台において、脇役としてお手伝いできることはとても光栄なことだと思っています。

人生の最期まで苦痛がなく楽しく生き切っていただくために、患者さんのご家族、ケアマネジャー、訪問看護師、ケアワーカーと一致団結して、全力で支えて参ります。

在宅ケア科

川邊 圭一 かわべ けいいち

金沢大学医学部（昭和 62 年卒）

とても、硬い話になりました。
ここで、少しばかり自分の楽しみを
書いてみます。

まずは、子供の頃から夢だった柴犬の多頭飼いをしています。今は、4匹と暮らしています。柴犬は、独立心が旺盛
というか、悪くいうと自分勝手ですが、それに振り回されながらも楽しい共同生活を送っています。冬場は、交代で布団の中に入ってきて甘えくれ、一緒に寝てくれるのが毎日の癒しです。

そして、もう一つの楽しみはユーミンのライブに参加することです。中学生時代から、当時は荒井由実でしたが、松任谷由実の大ファンです。最近、デビュー50周年を迎えツアーが行われ、時間を縫いながらも3回参加することが出来ました。また、毎年2月に開かれるSurf & Snow in Naebaという新潟県の苗場スキー場で開かれるリゾートコンサートは、ファンにとっては苗場という聖地巡礼の旅なんです。今年はチケットが取れず諦めていたのですが、キャンセル待ちで奇跡的に手に入れることが出来、参加することが出来ました。（スキー場でのコンサートなので、その時はスキーも楽しみます。）



ところで、ユーミンは派手な印象がありますが、400曲以上ある曲のほとんどは、人生への諦観が流れており、しっかりとした死生観がうかがわれます。ユーミンの楽曲で人生について、死について学んだことも沢山あります。そこで、自分にとって欠かすことのできない「ただわけもなく」という曲の一部をご紹介します。ユーミンの育ての親である”ヒデちゃん”が亡くなられた時に作られた歌です。

「気まぐれなメロディーを逃さないように 口笛で書いた 草と風のノート きみの手のひらに そっとしがみついた 何もかも変わっても 変わらないのは 心の瞳に まぶしかつたもの きみの髪ゆらす 光の輪のブリズムみたい 焼きついている 青い空に出会ったら ごめんねとつぶやいて きみにできることを 残したまま また会う日まで
青い空に出会ったら ヨロシクとつぶやいて きみがどこにいても 思い出せる ほんの近くに 青い空に出会ったら ごめんねとつぶやいて きみにできることを 残したまま また会う日まで」

ターミナルケアに従事するようになって以来、患者さんが旅立たれ、お別れをするたびにこの曲が脳裏に浮かびます。患者さんにもっとして差し上げることがあったのではないかとというごめんなさいという思いと僕ももうすぐそちらに向かいます、また、お会いしましょうねという言葉が心の中で浮かべながら。これからも、どうぞヨロシクお願いいたします。



池田 直也

【略歴】

1992年 奈良県立医科大学第一外科入局
2000年 奈良県立医科大学医学博士
2001年 奈良県立医科大学 助手(第一外科)
2006年 奈良県立三室病院(奈良県西和医療センター)外科部長
2015年 奈良県立医科大学臨床教授
2017年 奈良県立医科大学消化器総合外科 准教授
2020年 奈良県立医科大学消化器総合外科 准教授・医局長
2024年 医療法人南労会 紀和病院 院長就任

【資格】

日本外科学会指導医
日本外科学会専門医
日本外科学会認定医
日本消化器外科学会指導医
日本消化器外科学会専門医
日本消化器外科学会認定医
日本内視鏡外科学会技術認定医
日本乳癌学会乳腺認定医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本がん治療認定医機構暫定教育医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
新臨床研修指導医
日本 DMAT 隊員



病院院長就任の「あいさつ」

2024年(令和6年)4月から紀和病院の院長を拝命しました池田直也(いけだ なおや)です。

私は1992年(平成4年)に奈良県立医科大学を卒業し、第一外科学教室(消化器・総合外科学教室)に入局しました。大学での2年間の研修を終えた後、奈良県立奈良病院、大阪回生会藤田病院で外科手術の修練を積み、1997年から大学に戻って研究に着手しました。大学在学中には大阪北野病院第5研究部に国内留学し、膵臓癌の基礎研究に携わりました。

帰学後は助手として臨床・研究・教育に従事し、2004年から2017年まで奈良県立三室病院(現在の奈良県西和医療センター)に勤務し、膵臓、肝臓、胆道の高難易度手術の他、あらゆる消化器腹腔鏡下手術を数多く行なって参りました。特に傷跡を残さない臍だけの傷で行う単孔式鏡視下手術においては全国に先駆けてその導入を行い、数多くの症例を積み重ねてまいりました。

その後、2017年から再び奈良県立医科大学消化器・総合外科に准教授として戻り、乳腺疾患を中心に外科疾患を担当してまいりました。

紀和病院では2021年より週一回の非常勤医師として勤務させていただき、2022年からは腹腔鏡下单孔式手術の導入に本格的に着手し、現在では紀和病院にしっかりと根ざすことができました。

2024年4月からはこれまで醸成されてきた基盤を大切にしながら、病院全体のさらなる活性化を図り、チーム医療に基づいた質の高い医療を目指します。皆様のご支援とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

院長 池田 直也



■2024年4月1日に行われた入職式の様子

看護部長就任のごあいさつ



この度 2024 年 4 月より、池田亜矢子看護部長の後任として就任いたしました上野 恵（うえの めぐみ）と申します。これまで築きあげられたことを引き継ぎ、病院理念である“命の輝きを大切に”の言葉に則り、医師や看護師をはじめ、多職種が互いの専門性を活かして連携・協働し、患者さまやご家族を中心としたチーム医療・支援に取り組んでいきます。地域の皆様から選んでいただけるように、ホスピタリティ・マインド（おもてなしの心）を大切にします。『思いやり』と『相手を想うあたたかい心』で、患者さまを支え続ける看護が提供できるように日々努力してまいります。どうぞよろしくお願い致します。



新入職員紹介
今春、新たに 33 名が、医療法人南労会の職員として加わりました。

新入職研修を受講し、職員としての心構えや基礎知識を学び、患者さん・利用者さんから信頼される職員となれるよう真剣に取り組んでいます。

新任医師のご紹介

消化器外科 佐藤公俊 加藤智也

内科（総合診療科） 湯川貴史

腫瘍内科 宮田将行 岡部崇記

形成外科 上村和久 三宅有理亜

退職医師のご紹介

消化器外科／膵臓・胆のう外科

山上裕機 竹内昭博 田宮雅人

放射線科 山本敬

腫瘍内科 鈴木慎一郎

形成外科 鈴木琢也

永野先生と
臨床検査技師
4名
合格!!

一般社団法人 日本不整脈心電学会主催

第9回 心電図検定



2023年12月に行われた、「第9回心電図検定」に検査室から1級に3名・2級に1名が受験しました。

私たちは、心電図知識の向上のため4年前から心電図検定に挑戦しており、今回は全員合格することができました！（1級は循環器専門医レベル、2級は一般循環器医レベルの知識が必要とされます）。

心電図検査は非侵襲的で簡便に実施出来る検査ですが、判読するのは難しく、臨床検査技師でも苦手意識のある人が多い検査です。そこで、循環器内科の永野先生に定期的な勉強会を開催して頂き、判読方法を学ぶうちに心電図に対する面白さや奥深さを知ることが出来ました。日々の検査では、判断に悩んだり・疑問に思う心電図に出会うと、みんなで意見を出し合い、切磋琢磨しております。特に心臓超音波検査(心臓の動きを診る検査)を行う技師は、検査を行う前に心電図波形を確認することで、心臓の動きをイメージしてから患者様(心臓)と向き合います。そうすることで、検査での見落としがないうように心がけております。

心電図検定は誰でも受験できるので、興味のある方はぜひチャレンジしてみてください。

祝



授与されたバッジ▶
写真は一般社団法人日本不整脈心電学会 HP より



2級



1級

紀和病院 医療チーム紹介 No.3

口腔ケアチーム



口腔ケアチームは 呼吸器疾患看護認定看護師、歯科衛生士、看護師で活動しています。口腔ケアは誤嚥性肺炎などを予防し 健康の保持増進にもつながる重要なケアの一つです。私達チームは その重要なケアをより安全で効果的に実施できるよう自分達の技術や知識を取得し、病院全体に普及させていく事を役割としています。口の中の環境が整うということは 人として生きていく上での基本的営みである「食」、すなわち食べることへつながっていきます。患者様の生活の質が更に向上できるように、今後も病院全体で技術や質の向上に取り組んでいきたいと思っております。

教えて！「がん」と「癌」の違い



皆さん、「がん」と「癌」の違いについてご存じですか？

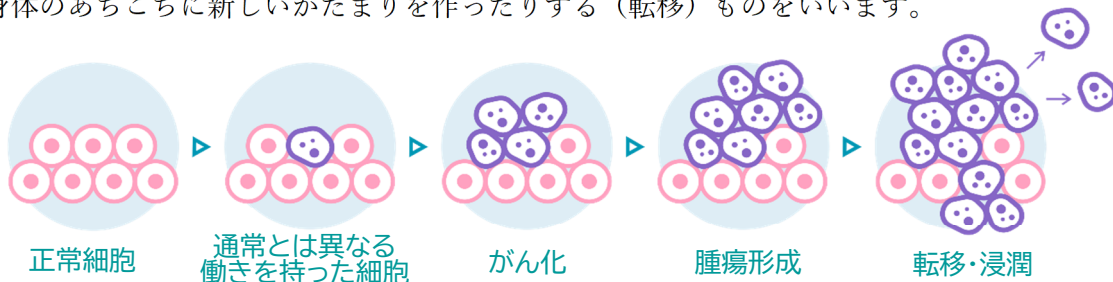
“ひらがな”と“漢字”の違いだろう！と思われがちですが、厳密に言うと実は微妙に違ってちゃんとした使い分けがあります。自治体で送られてくる“がん検診”を促す封筒やテレビのCMで紹介される“がん保険”などにはひらがなの「がん」が使われているはず。その中身をお話したいと思います。

ひらがな名で表記される「がん」は、ほとんど「悪性腫瘍」と同じ意味で使われます。ここで腫瘍についてですが、腫瘍とは身体の中にできた“細胞のかたまり”のことです。ふだん正常な細胞は、身体の周囲の状態に応じて柔軟に増えたり、また、適切なタイミングで増えるのをやめたりします。しかし何かの原因で生じた異常な細胞が、身体の中に細胞のかたまりを作ることがあります。これが腫瘍と言われるものです。

「がん」（悪性腫瘍）とは、このような腫瘍のうち、無秩序に増殖しながら周囲を食い破るように広がったり（浸潤）、身体のあちこちに新しいかたまりを作ったりする（転移）ものをいいます。

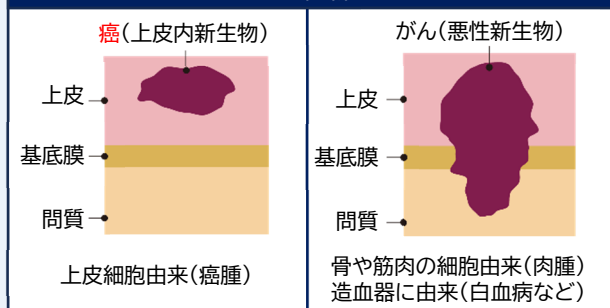


健康管理センター部長
診療放射線技師 國眼勇



がんと呼ぶ

悪性腫瘍(悪性新生物)＝がん



「がん」は発生した細胞の種類によって固形がんと血液がんに分類され、さらに固形がんのうち“上皮細胞”（消化管などの内側や身体の表面、臓器の表面などを覆う細胞）から発生したものを「癌腫」といい、“非上皮細胞”（骨や筋肉をつくる細胞）から発生したものを「肉腫」といいます。「癌腫」には肺癌や胃癌・乳癌などがあり、「肉腫」には骨肉腫や平滑筋肉腫、また、「血液のがん」には白血病や悪性リンパ腫などがあります。

もうお分かりと思いますが、漢字で書く「癌」は、ひらがなで書く「がん」の中に含まれているのです。まとめると悪性腫瘍を総称して「がん」とひらがなで表記します。ですから、“がん検診”や“がん保険”などは“癌”だけでなく、広い範囲での悪性腫瘍を対象とするため、ひらがな表記の「がん」となるわけです。

第20回 南労会学術研究発表会



3月16日、学術研究発表会が開催されました。今回は17人の発表者が、日々の患者さんと接する中で、事例や改善点などを研究して発表しました。これからも患者さん、地域の方のため学びを継続し、より良い医療を提供していきます。



森川耳鼻咽喉科

みみ

はな

のど

皆様 こんにちは

森川耳鼻咽喉科 森川大樹です。

私は近畿大学を平成22年に卒業後、近畿大学病院に臨床研修を含め10年ほど、近畿大学奈良病院に2年間勤務し、令和4年に五條バスセンターの向かいで耳鼻咽喉科医院を開院いたしました。

当院では耳鼻咽喉科一般診療をはじめ、めまい診療・甲状腺を含めた頭頸部診療・補聴器診療も行っております。待ち時間をできるだけ短くするために、Web予約システムを採用しております。初診・再診を問わず、患者さん自身で当日の予約が可能です。

耳鼻咽喉科専門医としての経験をもとに小さなお子様から高齢者まで適切な医療をお届けします。気軽にご相談ください。



院長 森川大樹 先生



診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	●	●	●	×	●	●
午後 16:00~19:00	●	●	●	×	●	×

休診日：木曜、土曜午後、日曜、祝日

*本文は森川大樹先生よりご寄稿いただきました。



森川耳鼻咽喉科

〒637-0004 奈良県五條市今井1丁目11-60
TEL (0747) 22-2001



不審者対応訓練

医療安全管理室 山本純史

2024年3月8日(金)、橋本警察署のご協力のもと、紀和クリニック内にて不審者対応訓練を実施しました。その後、同じく橋本警察署生活安全課岡上課長様より、講習会として「刺股(さすまた)」の本来の目的や、実際の使用方法等について詳しく教わりました。参加職員からは「目的が分かり、実際の場面で活かすことができる」や「さすまたの使い方が分かりました」等の意見が聞かれ、防犯意識の向上に繋げることができました。防犯訓練は継続性が重要であるということもご教授いただき、今後とも、院内全体で継続して訓練等を実施できるよう企画していく所存です。

